

〔中小企業の目〕（松江）

島根の鉄100年

児玉泰州
(協同組合島根県鐵工会)
理事長



出雲地方は、豊富な森林資源（木炭）と良質な砂鉄に恵まれており、日本独自のたたら製鉄（和鋼と呼ぶ）の産地故郷であり、明治の中ごろまでは国内の6割近くの生産を誇っていたが、20世紀の初頭になるとコストの安い洋鉄の輸入、軍需製品への品質の対応等、時代の要求に追いつかなくなり次第に和鋼生産も減少し、たたら経営も苦境に立たされていた。

そんな時代に、進取の気概をもって和鋼を蘇らせたのは郷土の鉄鋼経営者であった。松浦^{まつうら}弥太郎^{やたろう}は地元たたらベンチャー企業であったが、営業の孤立防止と自立近代化のために協同組合の組織を考えた。松浦弥太郎を社長とする地元の同業者7人の集まりは安来市で合資会社として、伝統技術を守りつつ鉄鋼業の近代化を行い、砂鉄・木炭に頼らない電気炉による溶解、鍛造技術、加工度上昇技術の近代化を行い販路拡大させた。現在の日立金属（株）安来工場の創業である。

地域で業を同じくする者が、ネットワークを築いて、個々のメンバーを超えたところにある目標を目指して、全体としての発展も可能とするような共同経済事業を行い島根の鉄鋼の大きな礎を築いた。明治の偉大な大先輩には頭の下がる思いがする。当組合（協同組合島根県鐵工会）も創業の精神を大事にしなければと思っている。

しばらくして安来の鉄鋼会社は松江市に分工場を操業していた。工場の近くに住んでいた私の祖父^{こだまのぶきち}児玉信吉は工場の“何を見て何を感じたのか？” 弊社（株）コダマの創業の動機ははっきりとしてはいないが、きっと、圧倒的な大工場、工場から立ち上げる大きな煙突と蒸気、ハンマーの音、轟轟と鳴り響く機械音、大きなトラック、そして鉄が溶ける姿に新しい時代の活気と商機を感じたに違いなく、26歳の祖父は大正8年（1919年）に鑄物工場を創業した。弊社もあと4年で100年となる。ものづくり企業として「溶かすこと」をコンセプトとして、溶解（鑄造）、溶接（機械プラント）、溶射（表面処理）の3溶の事業を行っているが、創業の精神を大事にしたいと思っている。

島根の鉄鋼の危機を救った地元の経営者がいる。^{なびかりじろう}並河理二郎は地元の実業家であるが、数々

の事業を行う中、松浦弥太郎が創業した鉄鋼会社の社長に衆望を担って就任をしていた。その手腕は素晴らしく、近代製鋼法を築いた功績は偉大である。しかし、100年前、第一次世界大戦が終了すると、様相は一変し、非常な経済恐慌にみまわれた。企業の縮小と再建に取り組んだが、その思いは「和鋼の伝統の火が途絶えてはならない」という使命感である。個人の資産で事業を支えたが、最終的に大正15年（1926年）に鮎川義介^{あゆかわよしすけ}に引き継がれることにより「和鋼の伝統」は守られ、橋渡しは行われた。安来の特殊鋼をメジャー資本へと転換した出来事であった。命を懸けて島根の鉄を守った人、経営者である。

協同組合島根県鐵工会は、昭和13年に創立した。時代は戦時下、政府は戦時統制施策をうちだして、軍需工場の国家管理が始まった。資材の配給を受けるため、県内の鉄工業者が連合会を組織して、県の指導監督のもとにおかれた。必然的に連合組合が発足をしたが、組合員の心はひとつ、相互扶助、団結、創業時のメンバーの連帯感は強固なものであった。

私は、理事長に就任1年であるが、組合に一番大切なものは、ネットワークによる組合員同志の連帯感、信頼感であると思う。そのネットワーク力が更なる上位の目的に結びつき、共同事業として新しい方向性を示せればと考えている。

就任時に、目指すべき姿として

「組合員の経済的な発展に寄与し、組合員から愛され、絶えず新たな価値を組合員に提供をし、地域から尊敬される鐵工会」と決めた。

組合の事業を通して組合員の生産性向上のお手伝いをする。労働生産性を今より更に2～3割高めないと、地域的な格差が解消せず組合員もその社員も豊かになれない。

「組合員のために面倒見が良くて暖かい組合になりたい」誰かが困ったり悩んだりした際、会社は違ってもお互い助け合い自分に足りないものを補ってもらえる、なんでも相談できる鐵工会に、「鐵工会は薬箱」にならないと親近感を感じてもらえない。

人口減少下、組合員はイノベーションを推し進めてほしい。設備、システム、人材まで、高付加価値の会社に生まれ変わる、事業を通して組合員が気づかなかった新しい提案ができ、喜んでもらえればなおさら最高と思う。

県内の製造業者の30%は鉄関連、現代のたたら工である。自信と誇りをもって技術を磨き継承し、後継者の育成をしなければならない。鉄の業界が島根のモノづくりを支えているという気持ちをもって、その存在感を強めていきたいと思っている。

島根県の鋳物の生産量は全国4位、特殊鋼は世界一である。最近では特殊鋼関連の組合員が航空機産業受注グループ（スサノオ）を発足、大いに期待をしている。島根の鉄鋼は明治から優れた経営者が切り開いてきた。

これからも「でてこい、でてこい、先取の気概にあふれる、鉄鋼経営者!!!」